

大光寺はノアの箱船を目指す?

ふちんかん

年に一度の延命うどんの振る舞い!

近松公園付近を歩いていると、「延命うどん振る舞い」とかかれたビラが各所に貼られている。日付はまさに取材当日。しかも時間もぴったりだ。これは行くしかないということで、急遽、取材班は大光寺を目指した。

けっこう遠かった

ビラをたどって大光寺を目指す。ビラではすぐソコってな感じの書かれ方だったのだが、行けども行けども見つかるのは「この先」を示すビラの数々。商店街をひとつ通り抜けて路地裏のような道に入り、ようやく見つかった。近松公園から1kmは歩いたぞ。しかしあらゆる方向にこのビラを貼ったとすると、すごい労力だね。

極彩色のお寺

大光寺は、朝鮮風の赤・黄・緑・白など極彩色に飾られ、ふつうの住宅街の中にあって異彩を放っている。

こんな裏通りにある場所に迷わずたどり着けたのも、年に一回しかないうどんの振る舞いに巡り会えたのも、よほど取材陣の徳が高かったためか、なにかしら縁があるのか。運命を感じますなあ。



延命うどん

さて、狭い階段を上がっていくと、お寺関係の方（というより選挙事務所にいる応援員みたいな感じだったが）が、頭にかぶれそうなほど大きなどんぶりを持って行き来している。おお、すごい量だなあ、今日の昼食はこれで充分だ、などと思ったものだが、これはみんなで取り分けて食うものだと、すぐに判明し、私は正直すこし意気が下がったぞ。

神戸新聞(?)等、それなりにメジャーなマスコミも取材に来ていたので、カメラを抱えた我々も「どちらの新聞社さんですか？」などと聞かれてしまい、返答に困ってしまった。

中に入ってうどんがくるのを待つ。



「カレーうどんはないのか」とか「肉うどんは」「卵を買ってくればよかった」などと、およそお寺の中とは思えないような鬻蹙発言を繰り返す取材陣（特にS氏とF氏）。



ほどなくうどんが登場。うどんお代わりOK、天かすやらネギやらの薬味取り放題でなかなか満足できましたぞ。

世紀末の大恐怖

食べ終わって、さあお暇するべえ、というときに、運動員風のおばちゃんが、住職が書いた本（世紀末の大恐怖）の販売攻勢をかけてきた。が、我々取材班はするりとかわした。一応、東販など一般の書店ルートで買えるようなので、興味のある方は読まれてみてはどうか。ただその本が平積みされている上に大書きされている（写真）、「地球は新しく大自然に大改善します」等よくわからない文言や、著者が自らを「地球女神」と名乗るあたり少々気にはなるが。



延命うどんは毎年、2月15日に行っているようなので、来年再来年と出かけてみればいかがだろうか（ただし地球が大改善していなければの話だが）。

